

(42)

氏名(生年月日)	ヤマ	グチ	ジュン	イチ
本籍	山	口	淳	一
学位の種類	博士(医学)			
学位授与の番号	乙第2001号			
学位授与の日付	平成12年9月22日			
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当(博士の学位論文提出者)			
学位論文題目	急性心筋梗塞に合併した左室自由壁破裂の危険因子と急性期再灌流療法の影響			
論文審査委員	(主査)教授 笠貫 宏			
	(副査)教授 小柳 仁, 大澤真木子			

論文内容の要旨

〔目的〕

近年、急性心筋梗塞に対する再灌流療法がポンプ失調の合併による院内死亡を低下させることは明らかとなったが、致死の合併症である左室自由壁破裂(心破裂)に与える影響については未だ明らかな結論が得られていない。本研究の目的は、心破裂の病像を明らかにし、心破裂に関与する臨床的危険因子と、再灌流療法が心破裂に与える効果について明らかにすることである。

〔対象および方法〕

当院に1968～1995年に入院した急性心筋梗塞連続2671例における心破裂発生頻度の経年推移を調査した。さらに当院において急性期再灌流療法が導入された1985～1995年までの連続1269例のうち、緊急冠動脈バイパス術を施行された14例を除く1255例については、破裂群と非破裂群とに分けて、臨床的危険因子と再灌流療法が心破裂に与える影響について、多変量解析を用いて検討した。

〔結果〕

過去28年間の心破裂発生頻度に明らかな経年変化は見られなかった(0～5.8%; 平均2.1%)。1985～1995年の間の心破裂は25例(2.0%)であり、多変量解析の結果、70歳以上の高齢者、初回梗塞が心破裂の独立した危険因子であった。(それぞれオッズ比3.62; $p=0.003$, オッズ比7.69; $p=0.046$)。再灌流成功群では保存的治療群に比べて心破裂の発生が有意に少なく(0.5%対2.1%; $p<0.01$)、不成功群では保存的治療群より

有意に高率であった(7.2%対2.1%; $p<0.01$)。再灌流療法施行群では、治療法の違いによる心破裂発生頻度の差は認められず(血栓溶解療法1.3%対経皮的冠動脈形成術3.6%; $p=0.16$)、再灌流療法の成功のみが独立した心破裂回避因子であった(オッズ比0.07; $p=0.001$)。

〔考察〕

心破裂の独立した危険因子は高齢と初回梗塞であり、前者は心筋組織自体の脆弱化、後者は側副血行路が不十分なための貫壁性梗塞が原因と考えられた。血栓溶解療法は、出血性梗塞の助長により心破裂の危険因子となる可能性が指摘されているが、今回の検討では、経皮的冠動脈形成術と比較しても心破裂発生率に有意差はなかった。これは、再灌流療法の成功が梗塞巣の心筋壊死の進行を防ぎ組織の脆弱化を回避することにより、非常に強い独立した心破裂回避因子となるためと考えられた。一方で、再灌流不成功群が保存的治療群よりも心破裂が高率であることは留意すべきであり、脆弱化した心筋の保護として、より積極的な降圧療法等を考慮することが必要と考えられた。

〔結論〕

急逝心筋梗塞に合併する心破裂発生の予防には、梗塞責任血管の再灌流を得ることが非常に重要であり、再灌流療法の違いには影響を受けないことが示された。また、再灌流療法不成功が心破裂の危険因子であることは、今後の対策を含めて、急逝心筋梗塞の治療における重要な課題と考えられた。

論文審査の要旨

急性心筋梗塞後の左室自由壁破裂（心破裂）は稀であるが、極めて死亡率の高い合併症である。近年、急性心筋梗塞に対する再灌流療法は急速に進歩し、ポンプ失調による院内死亡は減少したが、心破裂への影響は未だ明らかでない。本研究では1968～1995年まで入院した急性心筋梗塞2671例、とくに再灌流療法が導入された1985年以降の1255例を対象として心破裂の危険因子と再灌流療法の影響について多変量解析を用いて検討した。心破裂の発生頻度に経年変化はみられず、独立した危険因子は70歳以上の高齢者、初回梗塞であった。心破裂の発生頻度は再灌流不成功群で最も高く、次いで保存的治療群、再灌流成功群の順で各々有意差が認められた。再灌流療法施行群では血栓溶解療法と経皮的冠動脈形成術の間に有意差は認められず、成功のみが独立した心破裂回避因子であった。

従って、本論文は心破裂の予防には梗塞責任血管の再灌流が非常に重要であり、再灌流療法の違いに差が見られず、不成功が心破裂の危険因子であることを明らかにしたもので、今後の急性心筋梗塞治療の上、極めて臨床的意義の高い論文である。

主論文公表誌

急性心筋梗塞に合併した左室自由壁破裂の危険因子と急性期再灌流療法の影響

Journal of Cardiology 第35巻 第4号 257-265頁(平成12年4月15日発行)山口淳一, 河口正雄, 川名正敏, 浅野竜太, 住吉徹哉, 笠貫宏

副論文公表誌

1) 急性心筋梗塞症に伴う機械的合併症—心室中隔穿

孔と虚血性僧帽弁逆流—集中治療 8(11):1197-1203 (1996) 山口淳一, 住吉徹哉

2) 植え込み型除細動器の管理経験—拡張型心筋症の1例— Ther Res 18(5):1701-1704 (1997) 山口淳一, 遠藤康弘, 宇野元規, 笠貫宏, 他

3) 右室梗塞の病態と治療. 診断と治療 87(9):1716-1720 (1999) 山口淳一, 川名正敏